



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

主な内容

- 2面 がん相談ホットライン
2021年度年報より
- 6面 がんアドボケートセミナー
(アドバンスト)開催
- 7面 都内の中学、高校でがん教育授業

見えてきた 職域のがん検診状況

東証一部上場企業の健康経営調査まとめ 日本対がん協会

大腸、胃の受診対象は35歳以上 乳がんの超音波(エコー)検査は約半数

職場での健康診断や人間ドックでがん検診を受けた経験がありませんか。

職場での健康診断は労働安全衛生法に基づいて義務付けられていて、がん検診は福利厚生の一環として任意に実施されています。

このため、保険者や事業者ごとに、がん検診の種類や検査項目、対象とする年齢などはさまざま、国の推奨するがん検診の内容と異なる状況をどのように把握すべきかなどの対応策が課題になっています。

日本対がん協会が東証一部上場企業を対象に2022年に実施した健康経営に関するアンケート調査でも、回答した企業121社で、多様な検診状況が明らかになりました。

胃がん検診を実施する企業では、約6割がエックス(X)線検査を採用し、約4割が胃内視鏡検査を採用していました。胃がんのリスクを血液検査で調べるABCリスク評価などを取り入れている企業もありました。

対象年齢は35歳以上とする企業が最も多く2019年、2021年ともに男女とも6割近くを占めました。

同様に大腸がん検診、肺がん検診ともに、対象年齢は35歳以上が最多でした。肺がん検診では、20歳未満と

回答する企業も2割近くありました。

乳がん検診の検査方法はマンモグラフィーが最も多く、約5割が採用していましたが、5割近くで超音波検査も採用していたほか、視触診も数社で見られました。

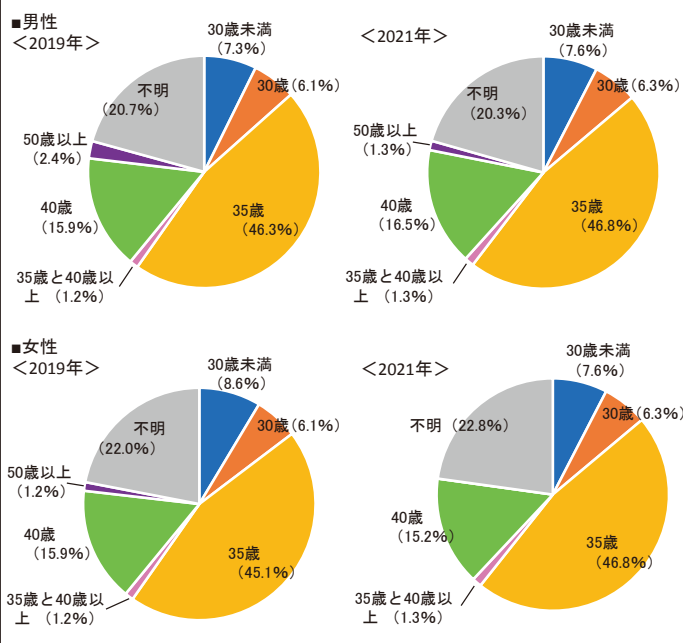
対象年齢は40歳以上が最多でしたが、女性従業員全員、18歳以上、20歳以上、30歳以上、35歳以上と、さまざまでした。

子宮頸がん検診では、医師による細胞診が最多でしたが、原因ウイルスの感染の有無を調べるための医師によるHPV検査も1割ほどありました。

対象年齢は30歳以上が最も多く、20歳以上は2割台にとどまりました。

国が推奨する胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの五つのがん検診以外では、腹部の超音波検査や、甲状腺がん、前立腺がんへの検査例がありました。

大腸がん検診を実施していた方にお伺いします。対象年齢は何才からですか。
(2019年:n=82、2021年:n=79)



職域での健康診断の状況については、コロナ禍でも大きな変動は見られず、影響は比較的少なかった可能性を示しました。国内のがん検診受診者の約3~6割が、職域でのがん検診を受けているという報告もあり日本のがん検診で大きな役割を果たしていると考えられています。

今回の健康経営調査では、4割近くが「健康経営優良法人認定制度」を取得し、6割の企業が、会社(経営層)として、社員の健康に関する方針を表明していました。

健康経営の浸透はまだ途上です。実態を把握する機会が限られる職域のがん検診についても、今後の適正化を目指すうえで、今回の調査結果が役立てられることを期待しています。(日本対がん協会がん検診研究グループマネジャー・服部尚)

厚生労働省が推奨するがん検診

| 検診の種類 | 検査項目 | 対象者 | 受診間隔 |
|-------|-------------------------|--------------------------------|-------|
| 胃がん | 問診、胃部X線検査または胃内視鏡検査 | 50歳以上だが、当分の間、胃部エックス線検査は40歳以上も可 | 2年に1回 |
| 肺がん | 質問、胸部X線検査(必要に応じて喀痰細胞診) | 40歳以上 | 年1回 |
| 大腸がん | 問診、便潜血検査 | 40歳以上 | 年1回 |
| 乳がん | 問診、マンモグラフィ(視診、視触診は推奨せず) | 40歳以上 | 2年に1回 |
| 子宮頸がん | 問診、視診、子宮頸部の細胞診、内診 | 20歳以上 | 2年に1回 |

がん相談 ホットライン

2021年度の相談件数7,211件

コロナ禍前下回るも
前年度比増

新型コロナ関連は873件 ワクチン接種に懸念、治療への影響に不安も

がん患者や家族などから無料で相談を受ける「がん相談ホットライン」の2021年度の年報がまとまった。相談件数は7,211件。新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中、相談員の感染防止のために相談体制の縮小が続いてコロナ禍前の2019年度には届かなかったが、前年度比で4割近く落ち込んだ2020年度から247件増えた。

2021年度のまとめ

ホットラインは祝日・年末年始を除く毎日(2022年度から祝日も受付開始)、匿名の相談者から看護師と社会福祉士が匿名で相談に応じている。しかし、2020年1月以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言などを受け、相談員の感染対策のため、受付時間は従来の午前10時～午後6時から、午前10時～午後1時と午後3時～午後6時の二部制に変更している。

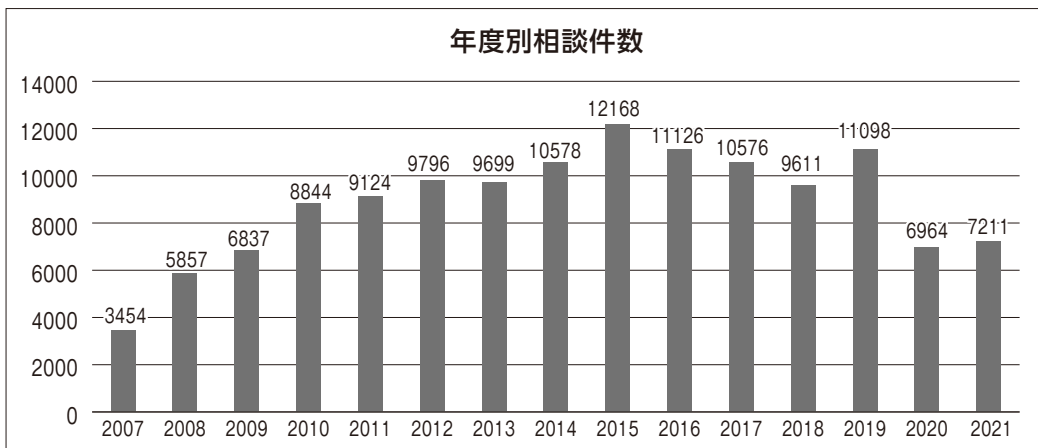
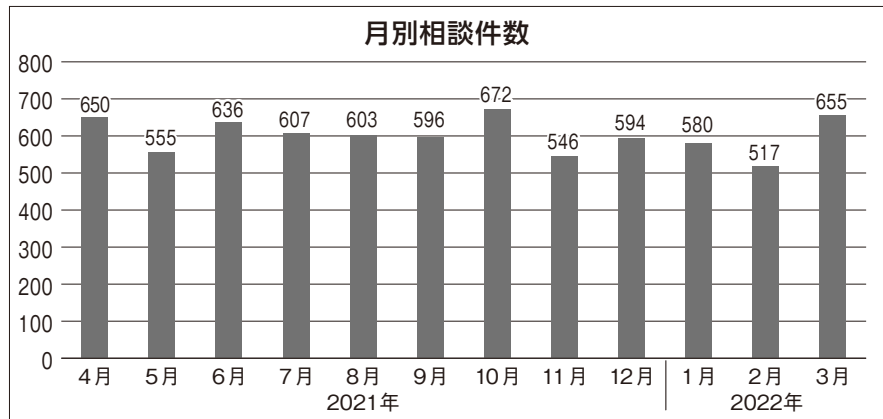
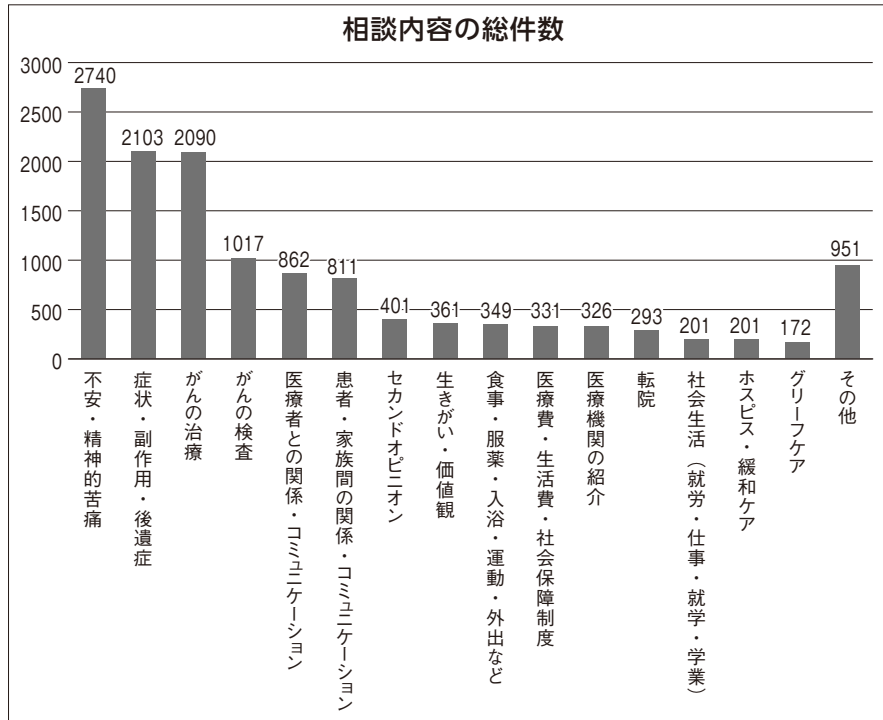
2021年度の相談件数は7,211件。月平均で約601件、前年度比103.5%となった。月別の相談件数では10月の672件が最も多かった。

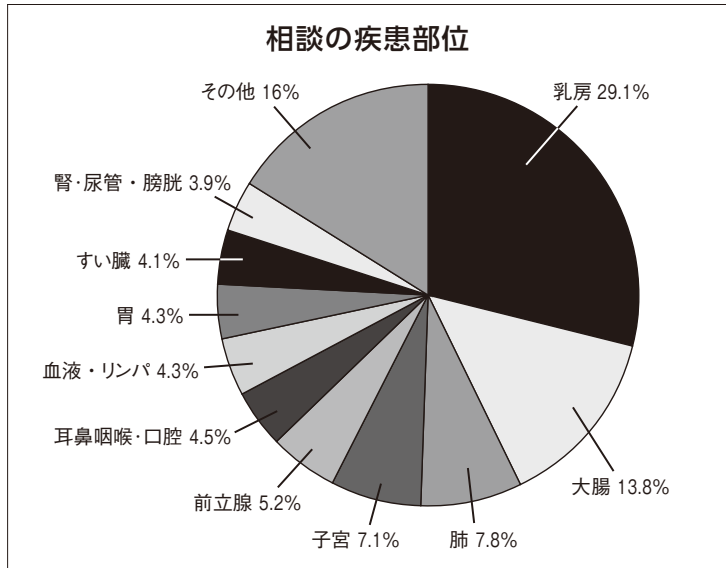
相談者の男女比率は、女性が78.5%(5,662件)、男性が21.5%(1,549件)と例年と変わらず女性が多かった。また、年代別では、50代が25.2%(1,814件)と最も多く、次いで60代の21.6%(1,561件)、40代の19.6%(1,416件)、70代の12.8%(924件)など。

相談者の続柄は、患者本人が67.7%(4,882件)、次いで娘が11.8%(850件)、妻が6.2%(449件)と続き、例年と同じ傾向となっている。

相談を受けた疾患部位は、乳房が29.1%(2,096件)、大腸が13.8%(996件)、肺が7.8%(560件)と罹患数の多い部位が上位となっている。

相談内容については、一つの相談に複数の問題が絡んでいる場合が多く、最も比重の高い項目を集計した場合、「症状・副作用・後遺症」が21.6%(1,560件)で最も多く、次いで「がんの治療」が21.4%(1,541件)、「不





安・精神的苦痛」に関する相談が18.0% (1,300件)となった。大切な人を失った遺族の悲しみに寄り添い、立ち直りを支える「グリーフケア」は2.3% (163件)だった。また、「食事・服薬・入浴・運動・外出など」のうち予防接種に関する相談は、コロナワクチンを中心に96件あった。

患者本人と家族では相談内容に違いがあり、本人からの相談は「症状・副作用・後遺症」が最も多く、家族からの相談は「がんの治療」が多かった。ただ、本人と家族の相談内容を見比べると、順位は違うものの、「症状・副作用・後遺症」「不安・精神的苦痛」「がんの治療」の3つがどちらも上位を占めた。

相談内容の項目をすべて集計した場合、「不安・精神的苦痛」が最も多く2,740件、次いで「症状・副作用・後遺症」が2,103件、「がんの治療」が2,090件となった。また、セカンドオピニオンに関する相談は401件で、2020前年度の198件から大幅に増えた。コロナ禍で十分に医師と話ができないことが影響していると思われる。

新型コロナウイルスに関する相談件数

国内で初めてコロナの感染者が確認されたという報道があったのが2020年1月16日。ホットラインに初めてコロナの相談が寄せられた2020年1月20日以降、引き続き相談が寄せられている。2021年度の相談件数は873件で、全体の相談件数に占める割合は12.1%だった。最も多く相談が寄せら

れたのは8月で103件だった。

相談を受けた患者の状況は、治療中が44.1%と最も多く、次いで経過観察中(概ね治療3カ月以降)が15.8%、診断なし(精査中

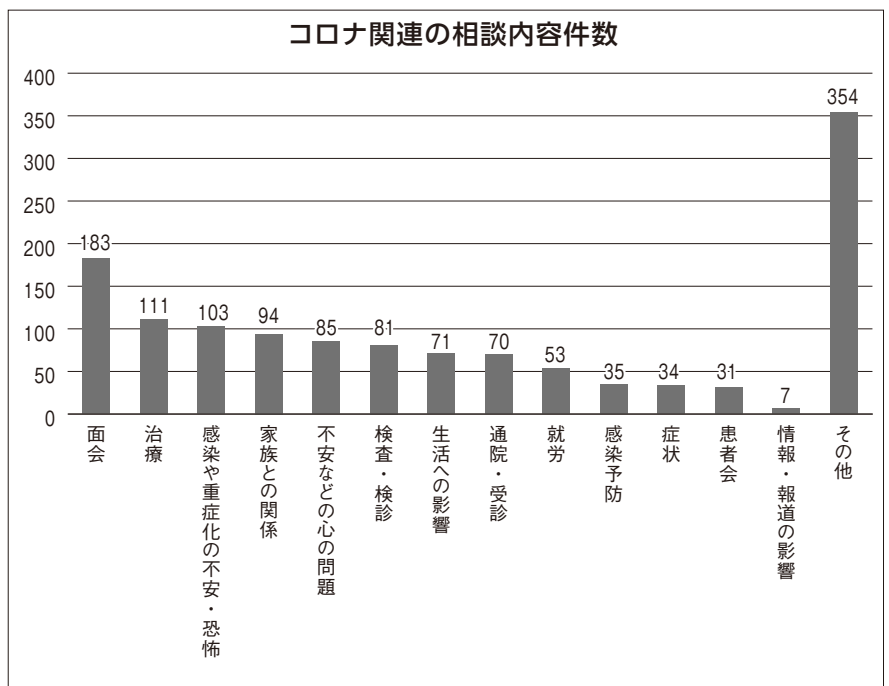
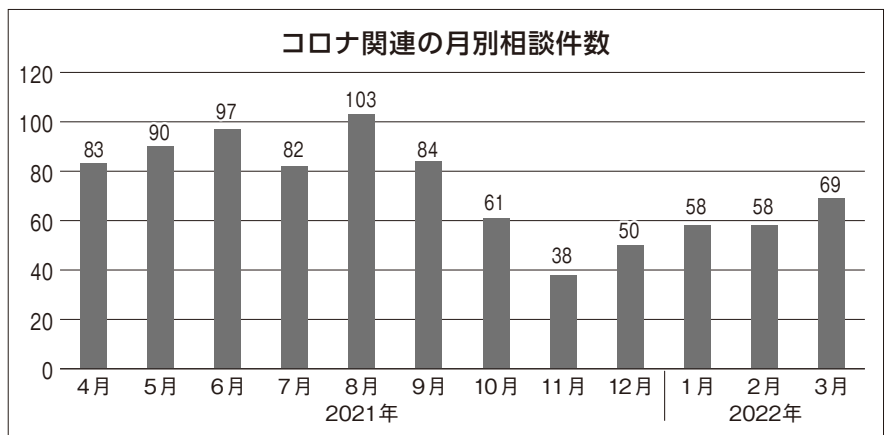
グ、接種部位、接種でがんが進行するのではないかと、治療への影響、接種後に出現した症状がワクチンによるものかがんの影響か、接種会場へ行くと感染しそうで不安など、様々な相談が寄せられた。ワクチンへの疑問や不安に関する相談も多く、接種者の体験を聞きたいとの相談もあった。

次いで「面会」に関する相談が183件。感染防止のために面会が制限され、「面会ができない」「入院している家族の様子がわからない」「病状がわからない」という不安の声が多く家族から寄せられた。緩和ケアへ入院している患者の家族からは「死に目に会えないかもしれない」と悲痛な相談もあった。患者からも「面会に誰も来てもらえないから一人で頑張れるだろうか」「面会に来てもらえないから不安」という声が聞かれた。

外来通院に関する相談では、付き添

を含む)が10.5%などとなっている。

相談内容は、一つの相談で複数の項目にわたる場合もすべて集計した。最多は「その他」の354件。うち288件がコロナのワクチン接種に関する相談で、接種するか否か、接種のタイミン



いが制限され、患者は診察時に1人で医師の話聞くことが多くなり、話が十分に理解できなかったり、家族も病状や治療方針がわからないという問題が生じたり、患者・家族ともに混乱し

たりしている様子がうかがえた。2020年度は、患者自身がコロナの感染を恐れて治療を躊躇する相談が多かったが、2021年度は、病院でクラスターが発生したり、コロナ病床の確

保で治療に制限が生じたりして治療が進まないことへの不安を訴える相談が多かった。

相談者から感謝の言葉 がん相談ホットライン2021年度年報より

治療を決めるための 精査中の方

わからないことが不安で、医師の説明を理解しながらやっていきたいが、内容が難しい。ホットラインで説明してもらおうと腑に落ちる。また、治療の具体的なことやどこに頼ればいいのかわかり、だいぶイメージができた。おかげで治療を頑張ろうと思えるようになった。このようなところがあって助かるので、対がん協会に寄付することにした。

おひとり様で 将来のことが不安な方

独居なので、再発した場合の身の振り方を相談した。これまでも診断された時、治療を選択する時、要所要所でホットラインを利用しています。1人で決断することは大変なので、手伝ってもらえて助かっています。

術後の体調に悩む方

術後の身体の回復に時間がかかっているせいもあって、気持ちが焦っていたと気づいた。相談しながら振り返ると、回復していることがわかって良かった。やれることを頑張りながら過ごしてみます。

緩和ケアの 入院を拒む患者の家族

がんの症状で家族が日常生活をできなくなってきた。本人は入院したくないと言うので、どうしていいかわからなくて電話した。一人で抱えていて苦しかった。話を聞いてもらい、何をすべきか教えてもらえて安心した。

治療法の選択に 悩んでいる方

がんになって決断を迫られることが多々あるが、素人には難しい。相談したことで自分の気持ちや価値観に気づけたし、一緒に考えてもらえて本当に良かった。スッキリしました。これで治療を決めることができそうです。

検査を受けたい 気持ちが強い方

主治医は必要ないというが、検査を受けたいと思って相談した。話を聞いてもらい、自分は不安ばかり大きいことに気づいた。検査したいのは不安だから。自己肯定感が下がっていたが、自分を否定しないで頑張ります。話を聞いてもらって良かったです。

死への恐怖が ぬぐえない家族

治療中だが、がんの症状が出てきて、近い将来死んでしまうのではないかと怖い。こう思うのは自分が弱いからだと思っていた。こういう相談は専門の人にしかできません。病気のことがわからない人や、どういう気持ちになるかがわからない人には話せない。ここだから相談できます。向き合うためのヒントがもらえて気持ちが落ち着きました。

グリーフケア

親ががんで亡くなったが、いろいろな後悔から気持ちが乱れていた。誰にも話せるような状況ではなかったので、話を聞いてもらえて気持ちがだいぶ落ち着きました。一人で苦しくてどうしたらいいかわからなかった。

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/jcs/>
(ISDNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALLE BOOKS

お問合せ(株式会社バリューストックス): 0120-826-295
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)

9価HPVワクチンの定期接種

厚生労働省

2023年4月から実施へ

キャッチアップ
接種にも対応

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)感染症を防ぐ9価HPVワクチン(シルガード9)の定期接種への導入時期について、厚生労働省は2023年4月と決め、準備を進める。11月に開かれた厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会での議論を踏まえた。HPVワクチン定期接種の積極的勧奨が控えられた2013年6月から約9年間の接種対象者で接種機会を逸した女性(1997年4月2日～2006年4月1日生まれ)へのキャッチアップ接種でも9価ワクチンが追加される。

公費負担による定期接種は現在、2

価ワクチン(サーバリックス)と4価ワクチン(ガーダシル)が用いられている。いずれも子宮頸がん発症の6～7割を占める2種類のHPV遺伝子型に対応している。一方、9価ワクチンは2価、4価を含む9種類の遺伝子型を標的とし、子宮頸がん発症に関わるHPV遺伝子型の8～9割を防ぐことができることから、子宮頸がんや前がん病変の罹患率の減少、子宮頸がんの死亡率の減少が期待される。ただし、現時点では定期接種の対象外となるため、接種費用は自己負担となる。

9価ワクチンの接種回数は現在、2価、4価と同じく、一定の間隔をあけ

て計3回となっている。その一方で、諸外国では2回が主流であり、現在、国内でも2回接種に向けた製造販売承認申請を審査中。そのため、承認後速やかに厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会で定期接種での2回接種に向けた議論を行う。

また、2価あるいは4価を接種した人が途中から9価を接種する交接種については、同じ種類のワクチンで接種を終えることを原則とするが、適切な情報提供に基づき、医師と接種対象者らがよく相談したうえで、9価を選択しても差し支えないとした。

遺伝的がんリスク体質の人 若くしてがんになりやすい

国立がん研究
センターなど

がんの特性をPRSで解明

がんの発症には、加齢・喫煙・放射線暴露などの「環境因子」と、個人の遺伝的がんリスク体質である「遺伝因子」がある。大阪大学、国立がん研究センター、慶應義塾大学医学部、理化学研究所の研究チームは、がん発症リスクを高める遺伝情報から、がんの様々な特性に与える影響について研究した成果を発表した。遺伝的がんリスク体質の人は、がんになりやすいだけでなく、若い年齢でがんを発症する傾向にあり、がんの特徴である体細胞異常(体細胞変異、コピー数異常など)の蓄積は少なかった。また、遺伝的がんリスク体質に関連する特性は、様々な種類のがんで共通していた。今後、がんの予防や個別化医療の推進に研究成果が役立てられることが期待されるという。

がんの遺伝因子は、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)となるような病因性が強いバリエーション(個人差)が

注目されてきた。しかし、こうしたバリエーションは一部の人に限られる。一方、最近では、多くの人々が持つバリエーションのうち数百～数千個ががんのかかりやすさに影響していることがわかってきた。個々のがん発症リスクは小さいが、多くの人(人口の数～数十%)が有し、ゲノム全体で考えると、がん発症リスクは大きくなる。こうしたバリエーションをまとめて評価することで、家族性腫瘍以外の「がんになりやすい遺伝的な体質」(遺伝的がんリスク体質)について調べた。

ヒトゲノム配列上には数百万カ所のバリエーションがあるが、研究では疾患との関連が示唆された数十～数十万のバリエーションからポリジェニック・リスク・スコア(PRS)を算出した。スコアを計算することで疾患にかかりやすい遺伝的体質かどうかを調べることができ

様々ながんに対して複数の計算手法

を用いてPRSを構築し、大規模ゲノムデータ(33万5,048人)を用いてPRSがどれだけ精度良くがんの発症を予測できるかを評価。乳がん、子宮体がん、前立腺がん、膠芽腫、卵巣がん、大腸直腸がん、食道がんについて遺伝的がんリスクを強く反映する高精度なPRSを選定した。そのうえで、詳細ながんの情報があるゲノムデータ(2,924人)についてPRSの値を計算し、遺伝的がんリスクががんの特性に与える影響を網羅的に調べた。

その結果、どの種類のがんもPRSが高いほど発症年齢が若いことがわかった。また、遺伝的がんリスク体質に関連するバリエーションは、がんの種類ごとに異なるが、遺伝的がんリスク体質の特性はがんの種類によらず共通だと考えられるという。研究成果は、2022年10月27日(日本時間)に米国科学誌「Cancer Research」(オンライン)に掲載された。

がん患者支援活動への思いを共有 実現に向けたオンラインワークショップ

がんアドボケートセミナー アドバンストセミナーを開催

がん患者の視点に立った支援活動を始めたい人や活動中の人を対象に、実現に向けた「がんアドボケートセミナー～第12期ドリームキャッチャー養成講座～」のアドバンストセミナーが10月、オンラインで開催された。がん患者・家族を支援する「がんサバイバー・クラブ」と、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクトとの共催。

今年度はベーシック、アドバンストの2部構成で開催した。ベーシックセミナーでは、患者会活動の仲間の集め方や社会的なインパクトのある支援活動をテーマに実施。そのうえで、アドバンストセミナーでは、ベーシック修了者を対象に、受講者が描く計画や思いを実現に近づけられるよう明確化することを目標に、参加者が思いを語った。ベーシックで講師を務めたテキサス大学MDアンダーソンがんセンター教授の上野直人医師、アドバイザーとして虎の門病院臨床腫瘍科部長の三浦裕司医師、東北労災病院腫瘍内科第二部長の森川直人医師や患者会、支援団体の代表者も参加し、アドバイスや意見交換をした。

受講者の一人は、がん告知後、相談窓口や支援センターなどの情報が病院

では得られず、また、医師の話を理解してコミュニケーションすることができなかった体験から、「身近な相談先を載せた支援マップを作成し、医師から患者へ渡すといった情報入手の支援、患者としてのスキルを身に付ける勉強会の仕組みを考えたい」と語った。これに対し、三浦医師は「病院の中にハード、ソフト両面で足りないものがあると分かった。問題解決の方法を考えたい」。また、森川医師は「支援マップのフォーマットがあれば全国に広がる可能性がある。モデルを作り、みんなの意見を募っていくと幅広く対応できるのでは。患者さんに寄り添うものを渡せれば、医師も心強い」とアドバイスした。

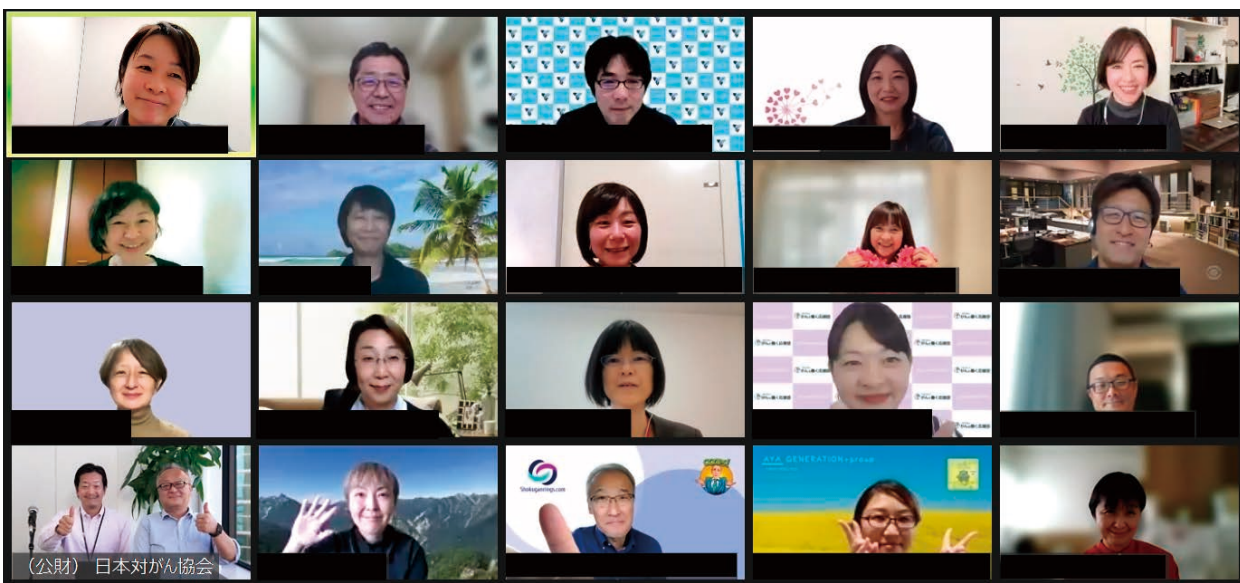
ほかの受講者も「気心の知れた地域で子育て中のがんサバイバーを支援する。さまざまな支援窓口を紹介する資料などもつくりたい」「自宅から徒歩圏内の図書館でがん教育を始めており、全国へ広げたい」「がん経験者の運動、体力づくりを支援する」などの思いを語り、その都度、参加者同士で実現へのアイデアを出し合った。

セミナーの冒頭では、受講者の質問に対し、患者会や支援団の代表者が経

験に基づいて答えた。一緒に活動する仲間の集め方では「いろんな行事に参加し、話をしていくうちに仲間は見つかる」「何かやりたいという同世代の人たちに声をかけた」「必要な人材を周囲に伝えながら募集し、直接話をして決めた」の事例が出された。

また、活動資金の調達では、「自己資金で法人を立ち上げ、助成金にもチャレンジした」「自己資金は入れないという考えから、クラウドファンディングを利用した」「無料のネットツールを使ってネット上で活動を始めた」「民間、自治体が複数年で行く助成金を申請している」などさまざまな方法が紹介された。

セミナー終了後に実施した受講者アンケートでは、「他の参加者のビジョンや目標を聞くことで、自分自身の方向性を明確にすることができた」「自分が思っていた患者支援活動の思いが、皆さんと同じ思いである事が再確認できて、今後の活動にご縁ができたのではと思います」など、すでに患者会活動に取り組んでいる人や志を同じくする人との交流が良い刺激になったといった回答が多かった。



アドバンストセミナーの参加者

がんサバイバーの協会職員、医師が講師 がんの知識、命の大切さ伝える

日本対がん
協会が協力

東京都内の中学、高校の2校でがん教育授業

公益財団法人日本対がん協会は11月、東京都立足立工業高校、目黒区立大鳥中学校が実施したがん教育授業に協力した。がんサバイバーの協会職員や医師が外部講師として授業に参加し、がんに関する基本的な知識やがんの予防、がん検診などについての解説

や、自らの闘病体験などを通じて命の大切さなどを語った。

文部科学省の新学習指導要領に基づき、中学校では2021年度から、高校では2022年度からがん教育の授業が始まり、多くのがん経験者や医療関係者が外部講師として授業に協力してい

る。新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中、協会が協力した2校でもマスク着用やオンラインの活用などで感染防止に配慮しながら授業がおこなわれた。

都立足立工業高校

都立足立工業高校(鴻野誠校長)では11月16日に授業があり、がん患者・家族を支援している「がんサバイバー・クラブ」の横山光恒マネジャーが講師を務めた。授業は全学年約400人が対象で、2年生は体育館で直接話を聞き、1年生と3年生はオンライン会議システムで結んだ教室から授業に参加した。

横山マネジャーは、日本人の生涯の中で2人に1人はがんになるおそれがあること、がんは40年以上、日本人の死因の第1位であること、生活習慣に注意することでがんになるリスクを下げられることなどを説明した。

また、自身の体験として、がんの告

知を受けた後の心の葛藤、がん患者としての孤独感、家族への想いなどを振り返った。また、闘病中、がん患者や家族を支援するチャリティー

活動「リレー・フォー・ライフ」への参加をきっかけに、がんを乗り越えて生きていくことを強く意識したと語り、最



がん検診の大切さを説明する横山マネジャー

後に、家庭でもがんについて話し合っ
てほしい、と呼びかけた。

目黒区立大鳥中学校

目黒区立大鳥中学校(永久保佳孝校長)では11月22日、東京医科歯科大学医学部血液内科特任助教の坂下千瑞子医師(日本対がん協会評議員)が講師を務めた。授業は2年生約160人と保護者を対象に、体育館でおこなわれた。

坂下医師は、がんは体の細胞が分裂するときのミス、ウイルス感染、遺伝的な要因で発症するが、生活習慣に注意することでリスクを下げことができると説明。生活習慣では、肺がんをはじめ多くのがんの原因になる喫煙の危険性を指摘した。また、今年度から積極的勧奨が再開された、子宮頸がんを防ぐHPVワクチンの定期接種についても説明した。

がんになっても困らないようにする

ためには、がん検診での早期発見と適切な治療、がんに関する正確な情報、治療の開発など、社会全体で支えることが大切だと話した。

また、米国留学中がんにになり、限りある自分の命と向き合う体験をしたと自身を振り返り、帰国後に参加したりレー・フォー・ライフなどを通して、医療従事者や家族・周囲の支え

など、がん患者になって気づいたこと
もあると語った。

生徒からは「がんに関する理解が深まりました」といった感想が聞かれた。



「がんになっても希望があれば、笑顔でいられる」と話す坂下医師

乳がん治療中こそ 運動が大切

スポーツ医学の専門家がQ&A形式で解説

啓発パンフレット
が完成

公益財団法人日本対がん協会は、新たな啓発パンフレット『スポーツ医学の専門家がこたえる 乳がん治療と運動 14の疑問』を制作した。聖路加国際病院副院長でプレストセンター長の山内英子医師が監修し、乳がん経験者向けの運動を指導しているスポーツ医学博士の奥松功基氏がよく受ける質問や気を付けるべきポイントを紹介している。

乳がんの診断後、極端に肉の摂取を控えるなど食事を変えたり、治療の副作用である倦怠感や体の節々の痛みから動くことをやめたりすることで筋力が落ち、「サルコペニア」の状態になってしまうことがある。年齢とともに筋肉量や体力が極端に落ちた状態を指すが、抗がん剤などの影響により、高齢者でなくてもサルコペニアになる恐れ

がある。最新の研究では、抗がん剤によって10年分の筋肉や持久力が減るという報告もある。サルコペニアの乳がん経験者は、そうでない経験者と比べて予後が悪くなる可能性が1.7倍高くなるといわれている。

抗がん剤や放射線などによる治療が続く中でも、運動はととても重要なこと。乳がんの治療中こそ、適度なタンパク質を摂取し、筋肉が衰えないように、できることに少しずつ取り組んでいくことが大切だ。運動がメンタル、疲労の改善にも効果的との報告もある。

パンフレットは、サルコペニアについての注意喚起、筋肉量を自分で測る方法、効果の出るトレーニング方法、

運動を続けていくためのポイントなどについて、イラストを交えたQ&A形式で解説している。



協会ホームページから無料でダウンロードできる。

URL (<https://www.jcancer.jp/news/13549?y=2022&cat=list&num=1>)

2021年度のがん教育授業 外部講師の活用は3,040校

がん経験者、がん専門医、薬剤師などが講師に

● 文部科学省まとめ ●

文部科学省は、2021年度のがん教育の実施状況をまとめた。第3次がん対策推進基本計画では「国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める」とあり、国公私立の小、中、高校、特別支援学校などを対象に調査し、計約3万6,200校が回答した。文科省は今後の施策の参考にする。

中学校、高校の学習指導要領(保健体育科)には、生活習慣と健康、生活習慣病などの予防と回復を学ぶ際、がんも取り扱うことが明記されており、中学校は2021年度、高校は2022年度から全国で実施されている。

2021年度に外部講師を活用した授業を「実施した」のは3,040校(8.4%)で、回答した学校の1割弱にとどまった。学校段階別では、小学校1,502校(7.6%)▽中学校1,146校(10.6%)▽高校392校(7.1%)となった。

外部講師の職種は、がん経験者696校(22.9%)▽がん専門医586校(19.3%)▽薬剤師416校(13.7%)▽その他の医師397校(13.1%)で、保健師、看護師、がん関連団体等職員、学校医、大学教員等、保健所職員、がん患者家族等もあった。

外部講師を活用した授業の実施形態は、「学年」単位が2,404校(79.1%)と最多。次いで「学級」単位343校(11.3%)

▽「全校」279校(9.2%)となった。教育課程上の扱いは「体育・保健体育」が1,733校(57.0%)で最も多く、ほかに「特別活動」819校(26.9%)▽「総合的な学習の時間」474校(15.6%)▽「道徳」151校(5.0%)もあった。

一方、外部講師を活用しなかった理由では、「教師が指導したため」が19,587校(59.1%)で最も多かった。次いで「指導時間が確保できなかった」9,698校(29.3%)▽「適当な講師がいなかった」3,916校(11.8%)▽「講師謝金等の経費が確保できなかった」2,059校(6.2%)などの回答があった。

がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています

時間は当分の間、10:00~13:00 15:00~18:00

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します



社労士による電話相談

態勢縮小のため
電話が繋がりにくい
ことがあります。
何卒ご了承ください